

## ヨハネの福音書 第14章 6節

「イエスは彼に言われた。『わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。』」

日常と非日常が織りなす生活に身を投じる。繰り返し何気ないリズムがまるで当たり前のように過ごしているとき、何か非日常的な事件や事態が起こると当たりの尊さを教えられる。大地震や、それによって引き起こされる津波災害が報じられると、電気、ガスを普通に使っていることの尊さが身に沁みる。また、当たりに動かしていた腕や足が病やケガで突然動かなくなってしまうと、不便極まりない生活となる。

何気なく過ごしているときにはあまり考えることはないが、いざ事故や災害という非日常が生活に飛び込んでくるといろいろ考えさせられる。どうしてこうなったのか。どうしたらこの事態を切り抜けられるのだろうか。どれだけの時間この不自由さを耐え忍ばなければならないのかとまどう。人の生活やいのちの脆さが明らかになり、無力さが突きつけられる。

そんなとき、日常も非日常をも貫いているお方がいることを覚える。いついかなるときにも、わたしが、と語り掛けてくださるお方がいる。ありとあらゆる出来事を通し辿り着く先を示すお方がいる。

2025年4月24日